

英米文化学会会報

#007 Published 17 May 1991 Not for sale

【英米文化学会第76回例会のお知らせ】

会場は前回と同じ場所です。

期日：6月15日（土）
時間：15時より17時まで研究発表
会場：日本大学歯学部3号館3階第7講堂

研究発表

『妖精の女王』1590年版のスペリング
バリエーション研究
佐藤治夫（日本大学）

ダーウィン進化論と近代日本の知識人
鶴浦裕（北里大学）



☆学会からのお知らせ☆

<学会の名称変更について>

既に葉書で御意向をうかがったことですが、当学会の名称が現代英米文化学会から『英米文化学会』に変更する案が総会で議決され、正式に名称が変更になりました。提出文書などを用意なさる場合は御注意ください。それに伴って学会誌の名称からも「現代」が消えて、21号（もうすぐお手元に行きます）から変更になります。【総務-佐藤】

<新規約・新組織発足>

前号の『ニュースレター』にてお知らせしました新規約が総会にて満場一致にて了承されました。改正された規約については前号の規約案をご覧ください。これにより、新規に分科会などが発足することになりました。後日学会員の皆様に連絡がゆくことと思いますが、御自分の専門の周辺部分の地固めともなる複数の分科会ができあがりつつありますので、どれか一つは所属いただくことになると思います。かならず今号の分科会準備委員会報告をお読みください。【総務-佐藤】

<新役員>

◎理事会

| | |
|------------|------------|
| 理事長 | 勝浦吉雄（会長） |
| 常任理事（学術担当） | 深井宏一（副会長） |
| 常任理事（渉外担当） | 名和雄次郎（副会長） |
| 常任理事（財務担当） | 高取清 |
| 常任理事（総務担当） | 佐藤治夫 |
| 企画担当理事 | 小野昌 |
| 編集担当理事 | 相良英明 |
| 分科会担当理事 | 石原強 |
| 同代行 | 五味田幸夫 |

（石原強先生は現在手術を受け、入院加療中のため当分の間、五味田先生が理事代行を務めます。）

会計監査 山下信一、室岡博

◎委員会

◇総務

佐藤治夫、須田理恵、鶴浦裕
主な業務：名簿管理 通信事務等
こんな時は総務へ：著書の出版、住所、電話・ファックスの変更、新入会員の紹介、勤務先、姓名の変更その他何でも

◇財務

高取清、富田恵子、吉田俊実
主な業務：会計管理
こんな時は財務へ：年会費の納入、『英米文化』への投稿料の納入

◇編集

相良英明、中村 豪、宮本正和、池田広子、山根正弘、宮崎敬子
主な業務：『英米文化』『ニュースレター』の発行、大会関係資料等の作成
こんな時は編集委員会へ：学会誌などへの投稿指針などが不明の時、『ニュースレター』に掲載して欲しい記事の投稿・提案

◇企画

小野 昌、石川郁二、小川喜正、平良達夫、神戸正美、佐久田英子
岸山 睦
主な業務：例会、大会の企画と運営等
こんな時は企画委員会へ：例会、大会での発表申込

◇渉外

名和雄次郎、石田雅近、馬嶋治男
伊澤 章、上野和子
主な業務：学会による出版、渉外事務一般
こんな時は渉外委員会へ：学会による出版の提案

◇学術

深井宏一、J.ゴドレイ、古澤寛行
大石五雄、勝浦吉雄、田島伸悟、佐藤治夫、相良英明
主な業務：論文選考、研究発表等に関する助言

◇分科会

石原 強、五味田幸夫、成田敏彦
鈴木俊二、秋山康三、石原千代
主な業務：分科会の企画、運営
こんな時は分科会委員会へ：分科会に関する問い合わせ



<各種委員会の問い合わせ先>

【学会本部】

勝浦吉雄
勤務先

立正大学教養部

品川区大崎 4-2-16

電話 03-3942-3840

電話 0485-36-6019

(熊谷校舎)

【編集委員会】

相良英明

【分科会委員会】

五味田幸夫(代行)

【学術委員会】

深井宏一

【企画委員会】

小野 昌

【財務委員会】

高取 清

【渉外委員会】

名和雄次郎

【総務-事務局】

佐藤治夫

勤務先

日本大学歯学部

〒101 千代田区神田駿

河台 1-8-13

電話 03-3219-8160(直通)

留守番電話機能あり

<全国大会の研究発表者募集中>

今年の全国大会は9月7日(土)、拓殖大学茗荷谷校舎で行われることになり、その研究発表者を募集いたします。申込み締切は6月15日(土)の例会当日までとなります。今回はパネル・ディスカッションに「英語辞書の現状と展望(仮題)」を予定していますので、その線にそって、語彙研究や語彙指導の実践に関する発表が若干あることを期待しています。発表希望者は企画委員会小野までご連絡ください。

【企画-小野】

<『英米文化』論文募集中>

『英米文化』22号の論文を募集いたします。締切は平成3年10月末日。投稿にあたっての書式等は『英米文化』末尾の投稿規程をご覧ください。なお、論文以外の御投稿の場合は、「資料」、「報告」、「書評」等の種別を題名の前に記しておいて下さい。また論文として投稿された場合でも、学術委員会の判断により「資料」、「報告」等とさせて頂く場合もあります。【編集-相良】

<新入会員をご紹介ください>

しばらくの間、新入会員を学会の方から積極的に募集していませんでしたが、受け入れ体制が整備されましたので、新入会員がどれだけ一度に入っても心配する必要がなくなりました。学会の正常な運営のためにも、学会員の皆様の積極的な会員増員努力をお願い申し上げます。【理事会】

<分科会始動に議論沸騰>

5月11日に、分科会の活動についてという議題で、準備委員会が召集されました。従来、分科会の活動に対しては、総論賛成、各論有耶無耶と、具体化されませんでした。今回は、具体的な活動についての本格的な検討でしたので、焔動的な研究教育論、刺激的な芸術文化論、楽観論、慎重論と、白熱した議論になりました。しかし、終始、建設的な方向で話し合いは続き、下記のように落ち着いたもので報告いたします。

1 分科会の主旨

個人研究の基礎を固めるために、同好のグループ(3名以上)で集まり勉強会を開き、周辺の知識の獲得並びに拡大をその主旨とする。学会からの資金援助もあるので、中間報告として、例会で口頭発表するか『英米文化』へ投稿する。将来的には、分科会の研究が熟した時は、出版等への助成がある。

2 分科会の種類(丸括弧数字が分科会番号です。整理の都合上、葉書には分科会番号とテーマを御記入ください)

- (1) 文学と性
- (2) 文学と犯罪
- (3) 戦争と文学
- (4) 死と文学
- (5) 教材としての文学
- (6) リーディングの要領
- (7) ティーム・ティーチングの方法
- (8) オーラルコミュニケーションの指導法
- (9) 英語教育と目標設定
- (10) 音声指導の法則化
- (11) テープ・ビデオの教室における利用法

分科会番号は以後も使用されます。複数の分科会に所属することができますので、電話連絡の時に会員の家族が対応した場合に「文学と犯罪分科会」などと言いつらい場合も予想されますので、分科会番号は重要です。

3 分科会の選択(同封の葉書を御使用下さい。6月14日必着)

会員は、上記の分科会の(1)から(11)までの中から、原則として1つ選んで、同封の葉書にて御返事を下さい。複数になっても結構です。ただし、該当するものがなく、他に希望するテーマ(グループ名)がありましたら、その旨を具体的に書いて五味田幸夫まで連絡してください(編集部注:電話は夜10時までにして欲しいとのことです)。学会の活性化には貴重な御意見ですので、大歓迎です。

なお、分科会担当理事の石原強先生は、現在、三鷹の杏林大学病院に入院、加療中です。先生の1日も早い全快を心からお祈り申し上げます。【分科会-五味田】

<会員の動き>

---出版---

- 後藤 正次 The Studies of Kikuo Tanaka
白鳳出版(平成2年)
- 後藤 正次 The Studies of Dr. Inazou
白鳳出版(平成2年)
- 後藤 正次 K.Sadamune "The Story of English Studies" 翻訳
成美堂(平成2年)

---住所等の変更---

今号は住所録を同封しますので住所を変更された方のお名前だけとします。
成田敏彦(住所と市外局番が一致していませんが、これで連絡が可能だそうです。また変更がありましたらニュースレターでお知らせします。)
吉田俊美(また関東地方に戻って見えました)

---本務校の変更---

- 須田理恵 日本大学生産工学部
成田敏彦 東京国際大学経済学部
高取 清 文京女子短期大学



<『英米文化』バックナンバーのマイクロフィッシュ販売開始>

今回から改題となった『英米文化』ですが、これまでの『現代英米文化』は14号から20号続いたわけです。それ以前は『現代英米研究』という名称の雑誌でありました。若い号数のバックナンバーの在庫簿に鑑み、『現代英米研究』第1号から13号までをマイクロフィッシュにて、学会員には実費で配布致しますので、葉書にてお申し込み頂き、一枚210円(60ページ分)プラス郵送料(受けとられた封筒の切手の金額分)を総務の佐藤治夫までお送り頂くことにしたいと思います。錯綜いたしますのでフオトコピーのご注文は受けかねますので、ご希望のかたは佐藤治夫の研究室までお越しくださって、ご希望の号を借り出して御自分でコピーして頂くこととなりますので御承ください。

なお、お手元に届くフィッシュは銀版フィッシュではなくシアゾフィルムですので、直射日光などに長時間曝すと変色の恐れ(読むことはできます)がありますので、必ずジャケットに入れてお使いください。蛇足ですがマイクロフィッシュのリーダーは5万円くらいから販売されているようです。またフィッシュからの紙へのプリントサービス(1ページ80円位)をしている会社もありますので、ご希望の方には紹介いたします。【総務-佐藤】



<『英米文化』のISSN番号>

我々の学会誌も第1号発刊以来20号を越えることができました。この長い歴史の一頁に更に一行が刻まれました。国立国会図書館から国際的に通用するISSN番号を貰うことができました。ISSN番号は過去に遡って与えられないので、『英米文化』となった21号からについての登録となりますが、国会図書館で書誌データを入力してくれますので、投稿した論文等は国際的に知られるようになるはずです。1号からのバックナンバーも納める約束になっていて、その分についても書誌データの入力をしていただけますので、今までの号の論文等もデータベースに載ることになります。新しいISSN番号は21号の表紙に出ているはずですからご期待ください。国会図書館からのメッセージは「わが国の貴重な文化資産として大切に保管させていただきます」とのことです。

このような状況ですから『英米文化』22号への投稿は大幅に増加するかもしれませんね?

【総務-佐藤】

【例会研究発表概要紹介】
スベリングバリエーションの認識について
佐藤治夫

本研究は『妖精の女王』1590年版の研究から始った。当時の印刷本に共通の宿命(?)は、木製活字を植字工が手で拾って組版作業を行なう事である。この植字作業に当たっては正字法(orthography)が確立されていなく、植字工の綴り癖と著者の綴り癖が反映されるという特徴がある。原稿は組版時に帳(signature)単位に各予定ページに分割され、それを複数の植字工が担当し、折帳の組版作業が行なわれ、印刷機の片かけ一枚ずつ印刷して、予定枚数の機に達すれば組版を解体して活字箱に更し、更に次の組版作業を続ける。このように綴り癖(傾み)を保持することは作品研究の不可欠の要素である。現在の英語では種類の綴りしか存在しない"battle"も、battail, battaille, bataille, battail, battayle, batteil, batteile, batteill, battell といふ八種類の単数形が『妖精の女王』には八種類存在している。本研究はこのように著者の綴り癖を調べるべく、著者定する元語の単語と中なる組合せの方法を探索する。



発行責任者 相良英明
英米文化学会編集委員 会
相良英明、中村 豪、宮本正和
池田広子、宮崎 敬子、山根正弘

<投稿時の宛先>

通常郵便
郵便番号 158
世田谷区深沢 2-4-9
相良英明宛